

2022年度語学検定講座報告

中国語部門：洪潔清

2022年度の「中国語資格試験対策講座」は、白金キャンパスではHSK4級とHSK3級、横浜キャンパスでは中検4級講座をオンライン形式で実施された。以下は担当教員が提供した情報に基づいてまとめた実施報告である。

1. 実施方法について

三つの講座はいずれもmanabaとZoomを併用して実施された。manabaでは主に筆記問題を扱った。過去問を毎回一つの出題形式に絞って事前にmanabaの小テストにして公開し、受講者に問題を解かせる。Zoom授業では間違いの多かった問題について解説を行う。受講者に一週間弱の解答時間を与えて解かせた。十分な時間を与えることで、受講者には自分で単語を調べて考える習慣が身につく、かつ出題形式に習熟させる効果があった。

また、リスニング練習はZoom授業の中心となっている。スクリプトなしとスクリプトありの二つのパターンを用意し、両方やらせることで音声を聞く機会を増やすとともに、スクリプトなしでは聞き取れない語句を認識させる効果があった。実際に筆記問題の練習で覚えた単語はリスニングの問題にも役立てたと見られる。リスニング問題を解答した後、問題文を参加者に簡単に訳させることで理解の不十分なところを把握し、重点的に解説を行う。

2. 受講者について

単位が取得可能な講座ではないため、途中からついていけず、課題を怠ったりする学生もいるが、最初から最後まで大変真面目に勉強していた学生もいる。教員は受講者のレベルに合わせて個々に対応している。例えば、自信を失い、講座を辞退しようとする受講者には基本的なことから解説できると励ました。その結果、その受講者は最後まで参加し続け、終了時には「今はまだ力が足りないが、さらに学習を続けて、いずれは受験をしたい」と言ってくれた。

一方、与えた課題だけではなく、自ら多くの練習問題を取り入れ、中国語に大きな興味を示し、学習意欲が非常に高い受講者もいる。その学生は1回目と2回目の過去問試験には落ちていたが、3回目では高得点で合格した。最後まで受講した学生から「実用性の高い講座」、「効果がはっきり見えた」との声が寄せられた。

3. 今後の課題について

オンライン形式で実施することにより、通学やキャンパス選択の問題がなく、受講者に利便性を与えた一方、講座で使用するmanabaのコースは、学期が変わっても受講者が更新されるだけとなっている。継続して使用しているコンテンツや小テストが大量にたまってしまい、管理が難しくなる問題点があり、できれば学期ごとに新たなコースを開設してほしいとの要望があった。

ドイツ語部門：コンスタンティネスク チェザル

2022年度のドイツ語検定試験対策講座は、春学期の木曜5限に3級対策講座（白金）、秋学期の水曜4限に4級対策講座（横浜）を、いずれも佐藤修司氏（本学非常勤講師）の担当で開催した（それぞれ全8回）。

3級対策講座はZoomを使用してのリアルタイム型の授業を実施したが、参加することのできない学生もいたため、教材資料をmanabaにアップロードし、適宜学生が自修した上で、質問等がある場合は同じくmanabaを通して受け付け、回答するオンデマンド式（教材提示型）の授業も併用した。4級対策講座は対面式授業を実施したが、こちらも授業に参加できない学生を考慮し、教材をmanabaに挙げた上で、3級同様の措置を講じた。加えて、両クラスとも学習の進捗度を確認するために、毎授業時に短い課題を提出させた（ただし、提出は任意とした）。

3級対策講座は、これまでの出題内容を踏まえた文法等の解説用教材を用意し、学生にはそれを参照した上で過去に出題された問題に解き方のヒントをつけてアップロードしたものを解かせ、授業中に答え合わせを行った。第1回～第5回授業時には文法問題を、第6回～第8回授業時には長文問題と聞き取り問題とを扱った。また、語彙力の向上を図って単語集を紹介したほか、授業時間内に扱うことのできなかった問題に関しては、解き方の説明と解答をつけたプリントを作成、配布した。ちなみに、登録した学生数は8名であるが、リアルタイム型の授業に参加した学生数は3名であった。また合格者は1名であった。

4級対策講座も、3級対策講座と同じように、文法等の解説用教材と過去問を用意し、授業時に答え合わせを行った（ただし、対面授業に参加できない学生には配布プリントにあらかじめ正解と説き方のコメントを付しておく、各自が自修できるように便宜を図った）。文法問題に関しては第1回～第6回授業を充て、第5回授業以降は、加えて長文問題と聞き取り問題も扱った。また、授業時間内に扱うことのできなかった問題に関しては、解き方と解答をつけたプリントを作成、配布した。ちなみに、登録者4名中、対面授業に参加した学生数は1名、教材提示型のそれのみに最後まで参加した学生数は2名であった。4級の合格者は2名であった。

スペイン語部門：大森洋子

スペイン語DELE準備講座は、今年度も、講師の先生との連絡をとりながら、Zoomとmanabaを使って行った。さらに、DELEと目的が同じながら、パソコン受験が可能で年間の受験チャンスが多いSIELEの準備にも適する講座として開講している。

1. 募集に際して

横浜・白金キャンパスの学生を対象としていることを考慮し、引き続きオンライン講座で行い、1年以上の学習歴をもつ学習者に限って行った。

2. 講座内容について

昨年指摘した教材の配布等の問題点は、教材を準備するなどして問題の解決をはかってきた。

今回は、講師もZoomによるオンライン授業にも慣れたことで、スムーズに講座は進められたようである。

夏休みのコースでは、5日のコースであり、レベルが自分の目的や学習レベルにあっていない学生もいて、最後は2、3人の出席になった日もあったが、それでも目的をもった学生が熱心に授業に臨んでいたという報告を受けている。

秋学期についても、オンラインで講座を行ったため、普段は横浜開講のために白金で授業を受けている学生の受講が難しかったが、今回はその問題が解消した。さらに、水曜日でいろいろなイベントもある中で、11月のDELE試験まで、講座をうまく活用した学生も見受けられた。

3. 総括

受講者は少なかったが、学習者のスペイン語を学ぶモチベーションの一つとしてDELE試験受験、またSIELE受験などの可能性を学生に知らせていくことができ、自律学習の姿勢が身につけていけると期待している。それが、外国語教育、スペイン語教育の充実につながっていくと考えている。

本講座の実施にあたっては、LMSでのコース設定、アカウント作成など教養教育センタースタッフ、教務部スタッフ、情報センタースタッフにさまざまな協力をいただいた。改めて謝意を表したい。

韓国語部門：李善姬

2022年度韓国語の語学検定講座は、5月の3週目まではオンライン同時双方向型（Zoom）の形態で、5月の4週目からは対面とオンラインライブ併用のハイブリッド形式で実施された。

担当講師、実施期間、参加人数などは次のとおりである。

| クラス | 担当講師 | 実施曜日・時限 | 実施期間 | 参加人数 |
|-------------|------|---------|------------------------------|---------------|
| TOPIK I -1級 | 金南听 | 火曜日4時限 | 5月10日～ 6月28日 9月27日 | 1～7人 |
| | 柳慧政 | 火曜日4時限 | 10月 4日～11月29日 | 1～5人 |
| TOPIK I -2級 | 秋賢淑 | 月曜日4時限 | 5月 9日～ 6月27日 9月26日～11月28日 | 3～8人 1～4人 |
| TOPIK II | 高槿旭 | 金曜日4時限 | 5月13日～ 7月 1日 9月30日～11月25日 | 2～11人 1～4人 |

●学習内容

TOPIK I -1級クラス、TOPIK I -2級クラス、TOPIK IIクラス共に、過去問の「読解」「聞き取り」の問題を解きながら、質問に回答した。授業以外の時間の質問については、manabaを利用し、学生の質問に回答した。TOPIK IIクラスはmanabaの個別指導を使用し、「作文」の添削指導を行った。またTOPIKの問題だけではなく、学生のニーズに合わせて、柔軟に対応した。

●学生の反応と成果

学生からは、「難しかったけど、新しい知識を得ることができてうれしかった」「TOPIKの受験を考えているので、大変勉強になった」という意見があり、講座担当の先生からは、「学生のレベルに差はあったものの、講座に続けて参加することにより、TOPIKの問題類型の理解をはじめ、学習上達が見られた」「この講座で、韓国語の総合的な能力を高め、初級から中上級へのレベルアップに繋がったと思う」などのご意見が伝えられた。また、「『ハングル』能力検定試験」の対策講座ではないが、TOPIK講座に参加し、勉強したことで、「『ハングル』能力検定試験」に受験した結果、合格した学生がいるという知らせもあり、大変有意義な結果が得られたと思われる。

全体的にハイブリッド形式で講座が実施されたことで、多くの学生が意欲的に参加できたと思われる。今後も多くの学習者が参加できるよう、ハイブリッド形式での実施が必要であると思われる。

フランス語部門：塩谷祐人

■仏検3級対策講座

本学非常勤講師の檜垣嗣子氏が担当する仏検3級対策講座は、横浜キャンパス・白金キャンパスの両方の学生からの需要が見込まれるため、対面での開催が可能となった本年度も、あえてオンラインでの開講とした。

春学期は事前申し込みが9名、初回受講者は6名でのスタートとなり、最終的には5名が参加を続けた。秋学期は事前申し込みが9名あり、初回は全員が参加。最終的には4名が参加を続けた。回が進むにつれて参加人数が減少するのはある程度仕方がないこととはいえ、その原因のひとつは、学生自身が3級のレベルが事前に把握できていないことにある。その差を初回授業でどのようにフォローし、学生の要望に応じていけるかも考えたい。

講座の内容は昨年度を踏襲し、事前にmanabaを通じて過去問題を配布し解いてもらい、Zoomでその解説を行うという形式を取った。試験対策講座としては、実践的な力を伸ばすための有効な手段であると思われ、実際、両学期とも、検定試験に合格したとの報告が複数なされている。なお、受講者は各自の判断で3級に限らず4級から2級に挑戦し、それぞれが成果を残している。また、検定試験は受けずに、授業の補習として参加している学生もいるように見受けられるが、それもまたこの講座のひとつの役割であろう。

仏検3級は「基礎の総まとめ」と位置づけられるため、一定のニーズがある。そのため、学生の参加のしやすさを考慮し、今後もmanabaとZoomを併用したやり方を継続することも考えている。一方で、春学期と秋学期を同一曜時限で設定すると履修状況によって両学期とも参加ができないという声も学生から寄せられている。今年度春学期は火曜5限、秋学期は水曜5限と、試みに曜日を変えてみたが、今後も曜時限を別に設定するなどの対策を検討していきたい。

■仏検4級・5級対策講座

昨年度に新たに開講した仏検4級対策講座であるが、2022年度も引き続き開講し、本学非常勤講師の加藤美季子氏が担当した。開講2年目となる本年度は、開講方法やレベルの設定を、より学生のニーズに合うように調整をしながらの運営となった。具体的には、春学期は4級対策講座としてオンライン開講とし、秋学期は対象を広げて4級と5級の対策講座とし、対面で行った。

春学期は事前申し込みが5名、2回目からは1名の参加となったが、最後まで当学生は受講を続けた。少人数でもニーズがあれば開催する意義はあるであろうが、学生が2回目以降も参加するモチベーションが保てなかったひとつの理由に、オンライン受講の手軽さがあると推察される。また4級は主に横浜キャンパスの学生を対象としているが、他の授業が対面となったため、オンラインでの参加がしにくくなったということも原因として考えられる。

春学期の状況を踏まえて、秋学期は4級・5級対策として対面で行った。事前申し込みが4名で、最終回だけは1名となったものの、ほとんどの回に3名が出席していた。なお、5級の受験を考えている学生の参加率が高く、予想以上に5級対策のニーズがあることがわかった。ただし春学期と秋学期の要望が同じであるとは限らないため、来年度は両学期ともに4級・5級対策講座とし、対面で開講した上で、学生のニーズをより正確に把握しつつ、開講方法や対象レベルを調整していきたい。

講座では、事前に配布した過去問題の解説や説明を行った。これは対策講座としては実践的で、学習効果も高い方法であると思われる。今後もこのやり方を基本としながら、学生の学習意欲を高めつつ、さらに上の級に挑戦できるよう促していきたい。

日本語部門：徳間晴美

開講2年目となる日本語関連講座について、以下のとおり報告する。

■JLPT（日本語能力試験）N1講座

2022年度はN1レベルの講座を開講し、それぞれ7月と12月の試験日前に実施した（全8回）。講座は2021年度同様、manaba（LMS）を利用して受講生への連絡や資料配布を行い、授業はZoomでの同時双方向型で進められた。受講生は5名以下の少数ではあるが、JLPTのN1を受験予

定であるという目的を持った留学生であり、熱心に取り組んでいた。

講座の内容については、初回授業で各受講生が希望する分野を聞きとり、学習内容を柔軟に調整しながら行われた。講座担当者からは、受講生にとって、N1文法のブラッシュアップになったとともに、自信をつけることができた講座であったとの報告がなされた。

■日本語教育入門講座

受講生は留学生数名を含む、学部生10名から15名であった。講座は、上記講座同様のmanaba (LMS) およびZoomで実施した。開講時は、異文化交流に興味があるといった、ややぼんやりとした理由で参加した学生たちも、「やさしい日本語」とは何かについて考えたりする中で、徐々に日本語の特徴や教え方のコツを捉えていった。自分たちで考え、話し合っ解決するというスタイルにも慣れていき、意見が交わせるようになっていった。本講座の受講を通し、「ボランティア教室で子どもたちに日本語を教えてみたい」といった具体的な目標が見えてきた受講生や、自分で図書館に行って日本語の教科書を借りてみたり、日本語教育能力検定試験の勉強を始める学生もいたり、日本語教育の世界に一步近づくきっかけになったようである。